

INSTRUCTION MANUAL

SAEC

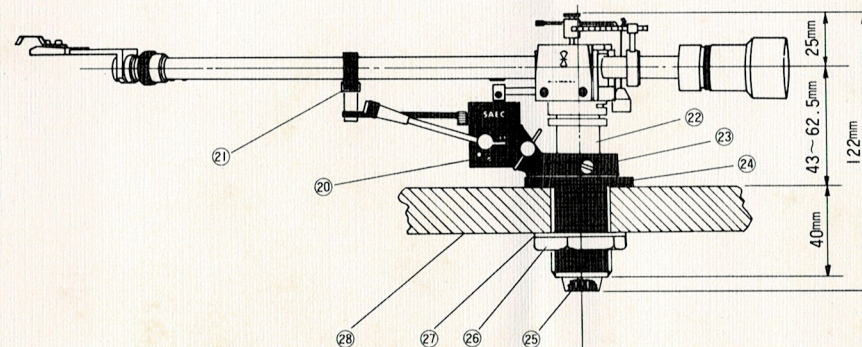
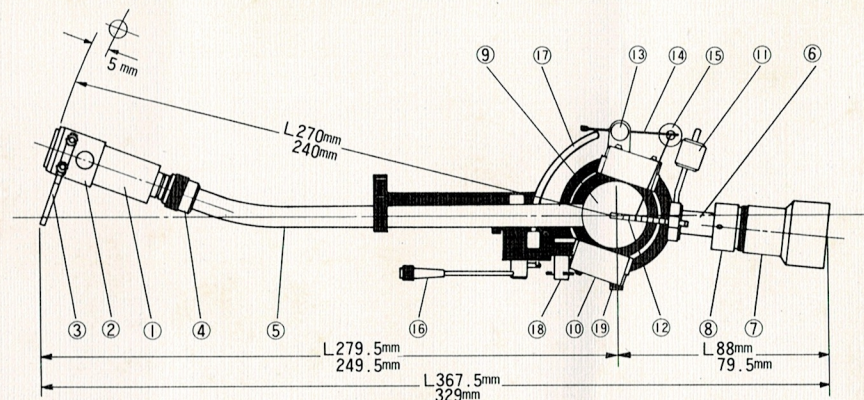
WE-308SX CONCEALED DOUBLE KNIFE EDGE PRECISION TONE ARM

AUDIO ENGINEERING CORP. JAPAN

SAEC WE-308SX

此の度は、SAEC WE-308SXをお買上げたゞきましてありがとうございました。
このアームはすでに御好評をいたゞいております。WE-308N、を更に高度に改善、改良したもので、今迄のトーンアームではたせなかった数々の特長をそなえています。
特に当社の技術陣が全世界にさきかけて開発した、ダブルナイフエッジ機構（SXでは更に改良）と高純度、高密度酸化アルミニウムヘッドシエルとは、此のトーンアームを世界最高級のトーンアームとする決定的な要因となりました。
これ等により、WE-308系に特長とする歯切れ良い音、澄みきった音等の特長が倍加されたばかりでなく、従来は、カートリッジのカンチレバーの強度不足により発生するとされていた、針泣き（ニードルトーク）を殆んど皆無にする事になり、レコードの始めから終り迄MM.MC等カートリッジをえらぶ事なく亦レコードも選ぶ事なく完璧な再生が可能となりました。

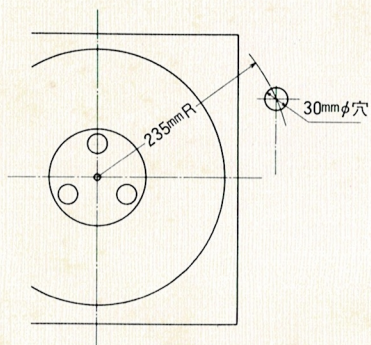
AUDIO ENGINEERING CORP.
TOKYO



- ① ヘッドシエル
- ② カソールプレート
- ③ 指かけ
- ④ ジョイントネジ
- ⑤ アームパイプ
- ⑥ ウェートシャフト
- ⑦ メインウェート
- ⑧ カウンターリング
- ⑨ アームボデー
- ⑩ エッジカバー
- ⑪ ラテラルウェート
- ⑫ キャンセラーバー
- ⑬ キャンセラー受調整レバー
- ⑭ キャンセラー受
- ⑮ キャンセラーウェート
- ⑯ エレベーションノブ
- ⑰ エレベーション受
- ⑱ エレベーションロックハンドル
- ⑲ アーム高さ調整ネジ
- ⑳ アームエレベーション
- ㉑ アームレスト
- ㉒ アーム回転軸
- ㉓ エレベーションスタンド
- ㉔ アームスタンド
- ㉕ 5Pコンセント
- ㉖ スタンドナット
- ㉗ スタンドウッシャー
- ㉘ 取付ボード

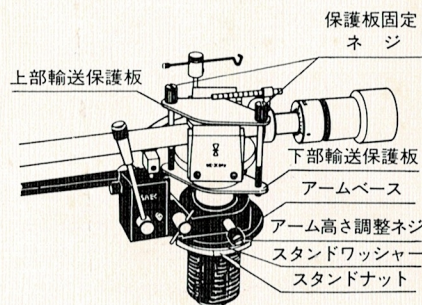
1. 取付

モーターボードに取付ける為に、先ず正確に寸法を計り、位置を決定して下さい。(第1図参照) 附属のアームマウンティングカードをご利用になると便利です。位置が決定しましたら、孔をあけて下さい。モーターボードの厚さは、約35mm位のものまで取付可能です。次にトーンアームを取り出し、輸送用保護板を取はずします。



(第1図)

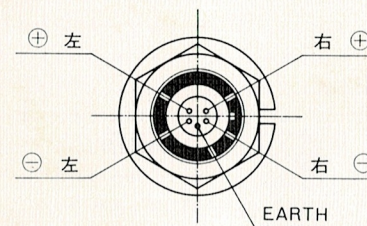
(第2図参照) 輸送用保護板は、2本のネジで固定されて居りますので、この2本のネジをはずしますと、上部保護板をとる事が出来ます。次に高さ調整ネジをゆるめるとアームスタンドと、アーム本体がはずれますから、輸送用保護板の下部を取除く事が出来ます。輸送用保護板は一括して、他に保管し、トーンアームの単体移動の際この保護板をお取付になる事をおすすめします。



(第2図)

次にアームスタンドをボードの穴に差し入れ、ナットを締め、附属のスパナで確実に固定して下さい。

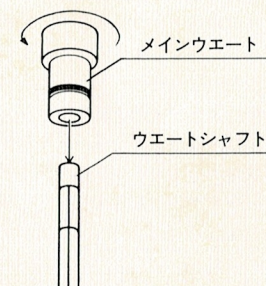
アームスタンドの取付けが終了したら、附属のP.U.出力コードを取り出し、5Pコンセント部をアームスタンド下部から、アームスタンドの中を通して、アーム本体と確実に接続して下さい。次にアーム本体をアームスタンドに差し込み、高さ調整ネジを仮締めして下さい。P.u.出力コードをアンプに指定通りL、Rを確実に接続し、アンプのアース端子にアース線を接続して下さい。P.u.コードの接続は、第3図の通りです。



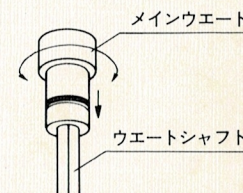
(第3図)

次に附属のメインウエートを装着して下さい。

(第4図参照) メインウエートを回転させる事によって、ウエートシャフトの突起が、ウエートのガイドにはまりこみますから、(第5図参照) あとはスムーズに回転し、前后に移動出来ます。



(第4図)



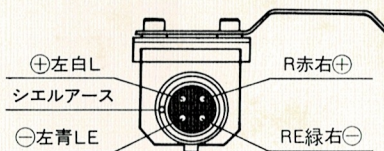
(第5図)

2. 調整

(a) カートリッジの取付

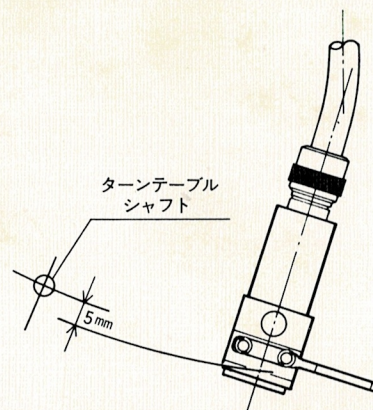
WE-308SXに付属されて居りますヘッドシェルは、SAECの技術陣が長年月研究し開発致しました。新素材、高純度（99.7%以上）の酸化アルミニウムの焼結多結晶体を、新しく開発された研磨法で精密に仕上げた、ソリッドタイプのヘッドシェルです。超硬度、超高密度の新素材による剛性は、従来のヘッドシェルの20倍（当社比）以上もあります。お手持のカートリッジの性能を100%引出す事の出来る唯一のヘッドシェルと申せましょう。先ず付属のヘッドシェルには、アクリルのダミーヘッドがついて居りますから、取付ネジをゆるめてこのダミーヘッドを取はずして下さい。次にカートリッジの取付けを行う場合、カートリッジメーカーによっては、ターミナルチップの太さが異なりますから、ターミナルに合わない場合は、カートリッジ指定のターミナルチップに交換して下さい。この際カートリッジのターミナルに直接半田付する事は絶体（絶対）に避けて下さい。リード線はJIS規格によってL、R等色分けされて居ります（第6図参照）接続を間違えますと位相が逆になるばかりでなく、音が出ない場合もありますから確実に接続を行って下さい。但し規格外の製品や旧型のカートリッジでは、この規格に合わない場合もありますから良く確認して下さい。

い。WE-308SXは、カートリッジの自重が4g～15.5g迄のものに使用出来る様に設計されて居ります。



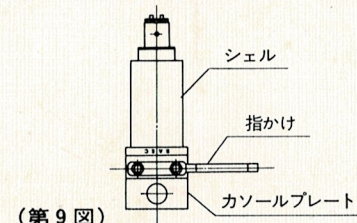
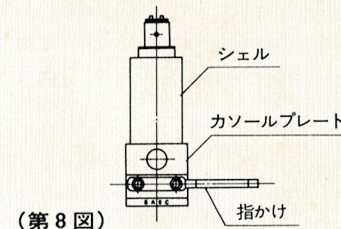
(第6図)

WE-308SXは、オーバーハング5mmに設計されて居りますから、これによってカートリッジを固定して下さい。オーバーハングとは、針先とアーム回転軸中心とを結ぶ直線が、ターンテーブルの中心を通る時の針先からターンテーブル中心までの水平距離を云います。（第7図参照）簡単に調整する方法として、ターンテーブル・センタースピンドルの上にカートリッジをのせて、ターンテーブルセンターから針先が空間で約4mm出る様に調整して下さい。（レコード盤にのせた時に5mmなるためです）。この時に極少の誤差がでますが、ほぼ満足出来る寸法となります。

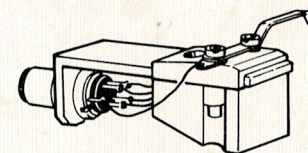


(第7図)

なおカートリッジの形状によっては、シェルとカソールプレートの位置関係の姿が悪くなる場合があります。この時は第8・9図の通りカソールプレートを逆に取付けて下さい。又、お手持のカートリッジが軽自重で、バランスがとれない場合は、付属のH型のウェートをシェルとカソールプレートの間にはさんでお取付け下さい。シェルとカートリッジの間に取付る事は絶体（絶対）にさけて下さい。音質が悪くなるばかりでなく、シェルの特性を充分発揮する事が出来ません。又、お手持のカートリッジによっては、



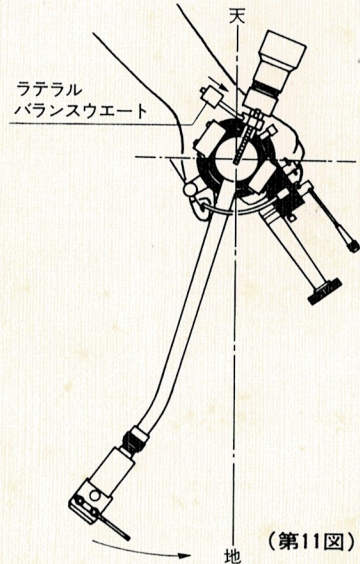
アースを必要とする場合がありますので付属のアース線をアースターミナルに接続し片側のラグ端子を指かけの下部に取付けて下さい。（第10図参照）



(第10図)

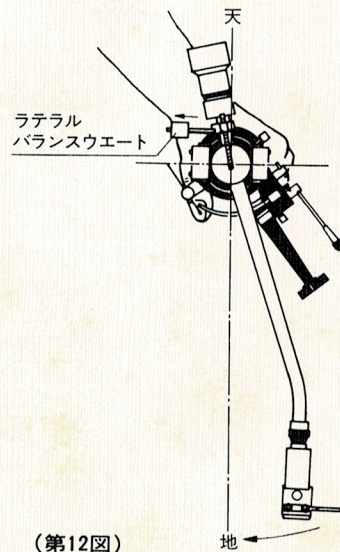
(b) ラテラルバランスの調整

WE-308SXは、三軸完全バランス型(X.Y.Z. 軸が完全に1点に交る方式)ですから、ラテラルバランスは、このトーンアームを完璧に動作させる為には是非必要なものです。工場より出荷時に完全バランス調整は行われて居りますが、輸送中若しくは、その他の理由でバランスがくずれて居るかも知れませんから、必ず確認して下さい。確認の方法として、先ずトーンアームにカートリッジ付きのヘッドシェルを取付、メインウェートを、左右に回



(第11図)

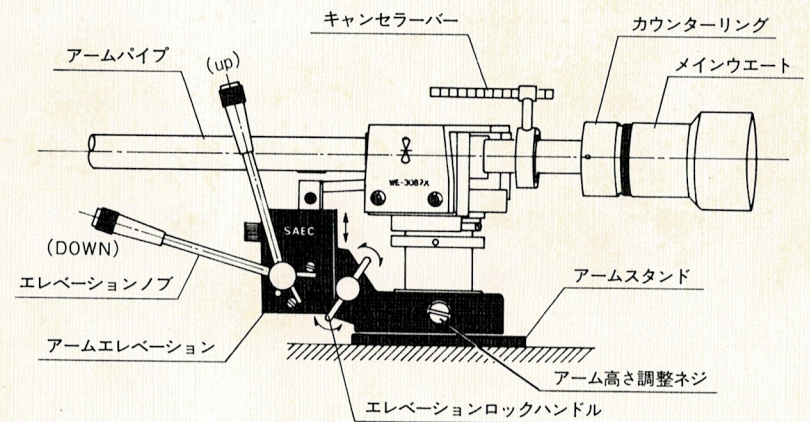
転させて水平のバランスをとって下さい。水平のバランがとれましたらアーム回転軸を左手にもち、ヘッドシェルを地面に向けメインウェートが天を差す様にお持ち下さい。(第11図12図参照)そしてヘッドシェルが左右どちらかに回転運動を起しますから、回転運動を起した方向にラテラルウェートをスライドさせて一点に止って左右どちらにも流れない様に調整して下さい。この時には、インサイドフォースキャンセラーは、取付ないで行って下さい。



(第12図)

(c) トーンアーム高さ調整

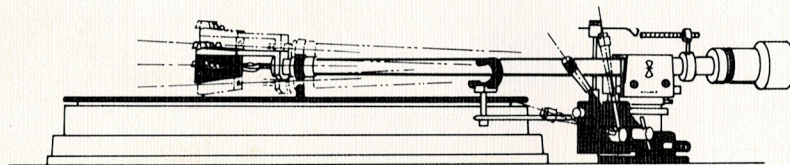
ラテラルバランスが調整出来ましたら、トーンアームをアームスタンドに取付けて高さ調整ネジをかるく締めて下さい。次にターンテーブルに、レコードを乗せた状態で、トーンアームが水平になる様、高さ調整ネジをゆるめて調整して下さい。水平になる様調整出来ましたら、アーム高さ調整ネジを確実に締めて、固定して下さい。(第13図参照)又、同時にエレベーターの高さ調整も行なって下さい。



(第13図)

エレベーターの高さ調整は、エレベーションノブをUP位置に押し上げた状態で、レコード面はカートリッジの針先が8mm～10mm位上った位置で固定して下さい。エレベーターは、エレベーションロックハンドルをゆるめますとスライド式で上下に動す事が出来ます。WE-308SXのエレベーターはミドルロック機構を内蔵して居りますので、エレベーションノブはUP位置から、DOWN位置迄の間、任意の所でストップする事が出来ますので、レコードの音溝に対し自由なストロークを得る事が出来正確に針先を降す事が出来ます。

(第14図参照)



(第14図)

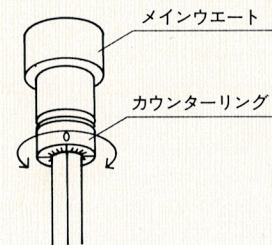
(d) 針圧調整

メインウェートを左右どちらかに回転する事によって、トーンアームの水平バランスをとる事が出来ますので、水平バランスがとれた所で、カウンターリングを回して針圧目盛を0の位置にして下さい。(第15図参照)

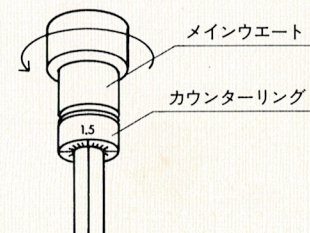
メインウェートとカウンターリングは別個に動きますから、この時は、メインウェートに関係なくカウンターリングのみ回して下さい。これで0バランスがとれたわけです。次にご使用のカートリッジの適正針圧に合せて、メインウェートを左回転させて針圧をかけて下さい。この時にカウンターリングだけ回しても針圧は変わりませんのでご注意下さい。

(第16図参照)

針圧目盛は1目盛0.1gで、メインウェートを1回転させて2gになる様に設計されて居ります。(2回転で4gになります。)



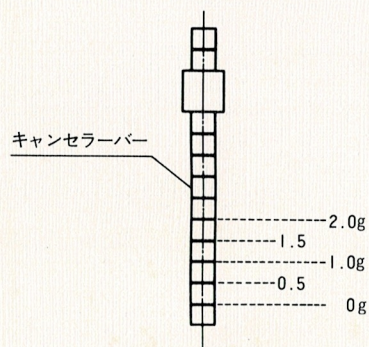
(第15図)



(第16図)

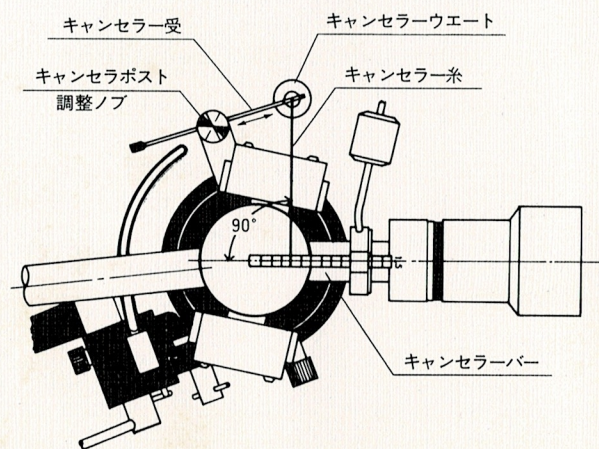
(e) インサイドフォースキャンセラー (アンチスケーティング) 調整

WE-308SXには理想的なインサイドフォースキャンセラーが採用されて居ります。インサイドフォースキャンセラーは、正確な動作が可能な糸掛方式で、その糸掛点は、水平回転軸の中心を見通せる点(0点)を通して居りますので、0gより直線的に調整出来ます。先ず附属のキャンセラーウェイトにつながったキャンセラー糸の輪をキャンセラーバーに掛け、キャンセラー受を通してウェイトを吊り下げます。(第17図参照)



(第17図)

一番手前の溝が針圧0gですから、カートリッジの適正針圧に対応して、所定の位置に糸を移動させて下さい。次に30cmレコードの最外周溝に針先が位置する所でキャンセラーバーに対し、キャンセラー糸が直角(90°)になる様にキャンセラーポストの調整ネジをゆるめて、キャンセラー受を動して調整して下さい。(第18図参照)



(第18図)

WE-308SXに採用されて居ります。インサイドフォースキャンセラー機構は、自動針圧微増装置を兼ねて居りますので、レコードの内周に針先が移動すると同時に針圧が、自動的に補正されて、常にレコードに対するトレッキングを安定させて居ります。以上で全ての調整が出来ました。WE-308SXの性能及び音質の違いを改めてご確認下さい。ニードルトークの減少、カッティングヒスノイズの減少、等々、ダイナミックレンジの広さに依るすばらしさを満喫して下さい。

テクニカルデータ

型式=コンシールドダブルナイフエッジ
スタックバランスユニバーサル型

全長= SX329mm LONG367.5mm

有効長= SX240mm LONG 240mm

オーバーハング= 5mm

トラッキングエラー=内周にて0度

針圧目盛= 0 ~ 2g(2回転で4g)直続式

カートリッジ重量範囲= 4g ~ 15.5g

インサイドフォースキャンセラー=糸吊り方式
自動針圧微増装置内蔵

ヘッドシェル=高純度アルミ焼結多結晶体シェル

リフター=ミドルロック方式オイルエレベーター

Pu出力コード=37PF1m当、ローキャパシテ
ィーコード

外觀仕様等は、改良のため予告なく変更することがあります。取扱説明書で指定の調整個所以外の内部機構等に関するネジ等は絶体にはずさない様に御注意下さい。

オーディオ エンジニアリング株式会社

東京都大田区大森北3-12-3 第2後藤ビル

電話 03(765)5505 (代表)

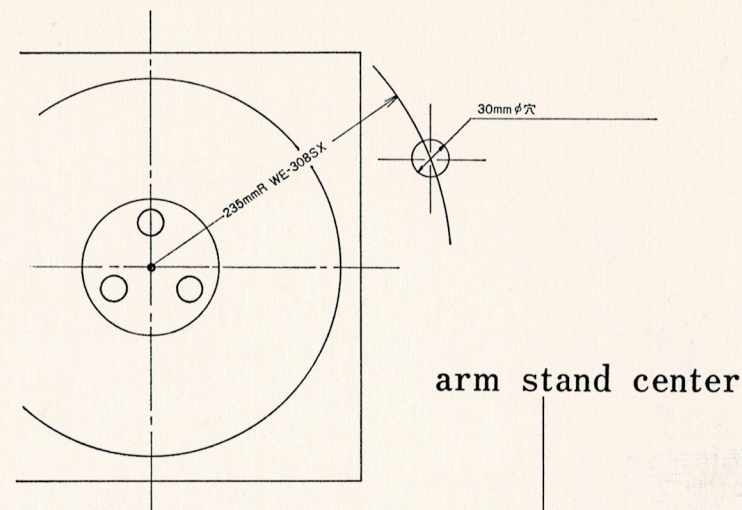
SAEC
WE-308SX

**ARM MOUNTING
CARD**

CONCEALED DOUBLE KNIFE EDGE PRECISION TONE ARM

アーム取付位置の決定

- 1) このゲージ台紙をターンテーブルスピンドルセンターに合せ、御使用になりますトーンアームのモデル番号のアームスタンドセンターに、「キリ」「針」等を通して図の如く円弧線上が、アームスタンドのセンターになります。
御使用のホノモーター及びキャビネット等のバランスを見てアームセンターを円弧線上で前後させて一番良いところで決めて下さい。
- 2) 決まりましたら、センターを基準とした、30 mmφ穴をあけて下さい。



T.T.spindle center

arm stand center

235mm WE-308SX